



志保之理

四篇

九

1管5
508
52



志原志の四巻の九

○ 毘那夜伽天ハ荒神の妻ノ宇賀夜ハ白蛇と譯
或多敷施神と譯其の龍神なり。亦又天
と吾別の妻なれども中比より毎天の像を伴
願多白蛇とて。一巻多敷宇賀神と稱す
赤天の像多日姫也。蛇にあり。又今青面金剛
の像を伴はれども我々の他意なり。其ハ鵝ニヤシカ也
たり。一むら像之文字明王も其又中比の像の
戴之三面六臂なり。是をとりたるも亦多敷家
の像也。

○ 中比本列名古屋村ノ善宮ニ在り。十二坊あり。
惣寺と云。長壽寺と云。中比堂阿彌陀の像。
此像今大高村
長壽寺に在り

〇 西寺宮 日上人宗祖なりと云や天王の社を其地と云
 西一坊なり是を唐の坊と云後或ハ天王坊と呼フ又
 一院と常林坊と云天王の社を延喜十一年辛未三月
 十六日依勅命勸法と云亨祿年中織田の佐秀
 今川なるノ助と云々これノ所多クノ一と云々神社
 院室之分焼一海ノ竟照上人の才子竟照上人
 中村對云 秀存ノ一ノ音中石の伝を傳す 元若宮ハ
 之勝明云 天王ノ百 石ノ領ニ 竟照ノ師完竟瑜若宮ノ一院法印院と云
 一ノ何寺法僧無虎山安處との縁記と云々此ノ後竟照
 樂向ノ法印院と云々此ノ後今ノ坊と云々
 各古屋並三層の厨若宮を
 茅葺師の地ノ一寺安

養寺ハ天王坊の内ニ過寺天王坊今仁和寺の院家なり
 院室号ニ明王院と稱す

〇 三列寺 迹本ト云地ニあり所於本ノ名を傳へ其ノ後
 略クハ地ニある酒井仙左衛門ト云々此ノ地ニあり
 酒井代領之 酒井ノ後又ハ地

〇 大々保石見者長安ハ觀世某ノ子ト云此ノ大々保大夫
 一族密問大々保ト云一若ノ子なりと云やか三ノり
 たりと云行信ハ漢なりと云其歸リノ死セハ幸ト
 云之ハそれト其子名刑セハ其物と子第ナリ
 孫ハ竹身 真西山曰忠臣必廉而忠姦臣ハ必貪リ
 而奸故ニ諸葛亮尽忠於蜀而成都止棄八百株元
 載為ニ姦於唐而胡椒至八百石ト云ハ長安也

死後貪り得し一敷宝精せしむく日比々其於天下
くこらつてれ侍りし一鳴呼

○ 聖と成りし隠者の稱ありし朝廷顯官の人と
しつゝあつて侍りし宋の政和年中道家の官仕を
きりし重なり元正五品より志士従九品よりしつゝ
官位の相尚と立つ

元士高士大士方士上士居士逸士隱士志士

此中才六つ披士、従七品の官や、異邦道士の字を
修く佛者むしりし人の正仕しして佛の字を宗者と
稱せし稱せし法師大士とく道家の字を稱せし
類いし佛者元用いし己の家名を稱せしこれらも

在官の人と稱したるをれし法華揚卷等の疏と
考ふし一各教典雅の言を後千一者とし六不仕、
の字者としし我五々の法師むしりし位顯官
稱妻人とも某ノ大居士と稱す大く其方とをこ
めりししむしりし

○ 江別唐流の松多傳歌くくありし家名なりし續拾遺
雜歌

我尼とも者そきくぬきくしむしりし松
此外しつゝし物りし中氏暴風のありし抄れありし
うしつゝし新唐流の事松多傳の城を監
せしれし其家人松庵東玉義斎直としし
人名未の稱しつゝし女風流を抄樹と一様あり

少進
推少進
大属
少属

兵部少輔恭連
中務大丞源仲学
少外記中原職永
左少史三善亮兼

中宮職

大夫

大納言通誠口

推大夫

中納言經音卿

亮

左衛門推佐光初朝臣

推亮

左中將基香

大進

左少兵治房

推大進

左京權大夫為量

少進
推少進

七条ノ左少将信方
式部大丞丹波ノ頼庸

○ 戊子三月八日京師 災

禁裏中宮

春宮

仙洞

女院

大准后

中宮對屋
大慈衛局

前ノ殿下

鷹司

左大臣家

九條

益子内親王

賢宮

兵部口親王

京極

女ノ宮ノ御所

禁裏御文庫無災御室藏燒
去古代重書及各物樂書等悉亡

諸家

諸家ノ記録過半燒失就中管家八代相續ノ家記亡

勸修寺

廣橋

西園寺

凡早

芝山 固池

梅ノ小路

櫻井

他尻

交野

小川坊城

千種

平松

五條

五辻

中院

花山院 大炊御門 西洞院 白川 中ノ御門
 坊城 唐橋 飛鳥 藤浪 西三條
 富小路 園 持明院 清水谷 日野西
 柳原 橋本 七條 搦司 耳露寺
 正親町 万里小路 東久世 堤 栗原
 清園 外山 醍醐 葉室 轉法輪
 押小路 石山 今城 梅浜 三條 中園
 難波 壬生 四條 植松 倉橋 愛宕
 高倉 高辻 樋口 藪 松ノ木 四辻
 町尻 武者小路 北小路 六條 高野
 上冷泉 下冷泉 葉川 中園 裏松

油小路 岩倉 長谷 劫解由小路
 三室戸 川鱒 清閑寺 猪ノ隈 山科
 花園 西大路 庭田 塩ノ小路 朱雀 津川
 錦小路 春日 吉田 萩原 生西家四月十日吉田ノ在家火事ノ時類焼也
 山田伊豆守 辻伯耆守 辻豊前守
 辻達之助 津田甲斐守 木村 主税頭
 高橋采女 栗津式部 石川左京亮
 進藤刑部大輔 山形加賀守 信濃小路大藏少輔
 曾根能登守 矢部筑後守 荒木志广守
 入江和泉守 林丘寺ノ宮ノ御里坊
 大覚寺宮御里坊 御室御里坊

景敏系 圖書

須光

圖書

須盛

圖書

大権現自六歳至

八歳座須盛宅

吉知

圖書

武公

圖書

須正

圖書大権現賜智多郡荒尾庄掛村自此子孫代々賜公方家ノ朱章ヲ

右斐田加藤氏畧系也

○ 或人曰舍人とト子リト訓セリ如何なる。訓意を

曰日本記に、此をト子リと讀ませりトハリニ

イリト云フ轉語ナリト云フ。つゝ、まゝる。官人

ト云フト子リ

○ 和列を解するに本居村あり古(本居)と云ハル

氏の高向うと云へ任守又後居と云ふ家もあり

是等の事と爲城あり。今ハ二村に任守あり

ちりりもめく髪を髪とせしめ是れ是れ是れ

氏あり寛文の末(了)寛と云く本合の素傍を

髪の本奥とせんともや、其の長と云く姓言フ

吐キ物とせしむ。いふと云く是れ是れ是れ

之者は後小角再いせよ、其のいふこといふ

隨徒セ。了寛一旦名邊(おろり)村本居法冠ありと

つきてお。正徳元年の事あり。それより前

是村小止天の川等の政あり。本居(修)録

りり印し。今そそかや。いも判し。其の風俗も

尼あり。却て治家あり。と云りりや。本居のいふ

説り。いふ。不覚の清く。好意のす。整なり。いふ

説り。いふ。不覚の清く。好意のす。整なり。いふ

○ 葵の法紋 源政公法おのり流くしより源ノ
 親長の山崎男為家と石法公の法氏子と
 八幡を宗と稱す為社の神紋とありて
 龜繪と法徳の紋と志あり法次男義徳ハ
 加藤ノ社法烏帽子ありナカ撥ナカ加藤の法弁と稱
 印より葵と徳の紋と志あり三男義光とハ三井
 寺の新法寺神の烏帽子ありとありて新法寺と
 して法ノ神衣の紋と以て刻義と紋と志あり
 義家の山崎新田家大中思の法紋を根本幕
 たり龜繪ハ 市家の秘法とありて徳川家
 徳川ありて親氏久三別加藤郡入市の後山崎勢

花よりんし市子ハナコ枝多しれた多し一 形多し
 あり加藤の法長と稱し市家の龜繪の法紋
 葵より書ありありて市一統の法旗幕と付于世
 今凡ハ是今の葵龜繪の法紋ありと云く
 御末年の御あり
 今辨法年の廿二日主君官長と登すあり
 これ等 大権現長傍所攝の所山家法多しハ
 本教寺門徒あり一丸形及場へ糸信一上京の
 つわんこそ市後徳と伺ひ多しありありとあり
 礼教とありりありあり
 ○ 幕下及び公族威首山崎初の所危の山崎内家

第摩山と云ゆりく大坂のありて多とせせしは
市感六科しそ申述市陸と給しし市如るあり

万官控入訪話

○ 我國者人字あり字七入字の陳文章作の意監

書下不の及存く必字と申ししなり
源氏の内下
羊の及り

中世をそ所て市を所はしとと字をそ稱せしなり
東澄字
及り

今時の信そ字大中なりなり
乃家我 邦辰ノ市字

敬義直より 朋網誠より 中吉通より 羊の文ノ字

市家人をそ將く可なり

○ 仁王公法家の館をとりり 園ありて進述

の市如法ありて且つ全張と稱せりし其去案あり

金二千兩 関白殿下鷹 金二千兩 九大臣家九

金二千兩 京極宮 金九百兩 妙法庵殿

金一千兩 曼花院宮 金二百兩宛 當官大納言十人合テ

金二百兩宛 當官中納言七人合テ 金百兩宛 宰相三位三人合テ

金三百兩 西園寺殿 金三百兩 醍醐殿

金三百兩 花山院殿 金三百兩 大炊御門殿

金百兩宛 殿上人廿三人合テ九十九兩 金百兩 嵯峨 極福

銀二百枚 東久世三位殿 銀廿枚 東久世少将殿

銀五百枚宛 兩傳奏四人合テ二十 銀三十枚 石野三位殿

銀十五貫目 林丘寺ノ宮上

銀二百枚宛 妙法院ノ宮 大覚寺ノ宮 大乗院殿 三寶院殿 青蓮院宮

凡我西人傳漢者もく通る君と我り一父と
 近し親族互く同族して已し猶り利と謀る事の
 すく五胡華と稱り傳我るよりかきく
 宗一く西人の如く傳我るより入る傳我る譯
 其のまゝに稱ひく衣冠と稱り一故に傳我る
 義理のうらうらもり君父を我り一西人等を
 何れも傳りて傳り一君と我り一父と我り
 何れもすれば福業長壽とゆく死後必浄土とせし
 其死せし處を説くこれ傳我る君好む事なり
 傳我る村行り嗚呼にむつと我夷を以てを
 夏す其杖の罪人^{ツミト}是より大なる事なり

○ 職原鈔曰聖德太子攝政十一年甲子正月始定冠位

十八階

安保流ノ傳曰上三階中三階下三階ナレニ左右
 アリ合セテ十八階トス其畧如左

○ 十八階畧

- | | | |
|-------|-----|-----|
| 左、織冠上 | 織冠中 | 織冠下 |
| 上之上 | 上之中 | 上之下 |
| 右、錦冠上 | 錦冠中 | 錦冠下 |
| 左、織冠上 | 紫冠中 | 紫冠下 |
| 中之上 | 中之中 | 中之下 |
| 右、編冠上 | 編冠中 | 編冠下 |
| 左、青冠上 | 青冠中 | 青冠下 |
| 下之上 | 下之中 | 下之下 |
| 右、黑冠上 | 黑冠中 | 黑冠下 |

以後世位階配當之品

左正一位	正二位	正三位	正四位上	正五位上	正六位上
上之上	上之中	上之下	中之上	中之中	中之下
右從一位	從二位	從三位	從四位上	從五位上	從六位上
正七位上	正六位上	大初位上	小初位上		
下之上	下之中	下之下			
從七位上	從六位上	小初位上			

右二十階も亦十八階より出づ意は之の意と云く
 之れ八等七十四年所写顯統本の儀尔抄ノ古註ノ
 凡々云々

○ 戊子四月廿二日 松尾若乃方御縁如之り
 依りて如賀ノ宰相家及ハ今子若孫多ク也
 佛書院 少引後 少新著大 少御子加 少器物 少墨物 今依りし

右ノ信孫也真流少御子ハ少院也真流 宰相家ハ三方 若州ハ足歩

献上

御左方 時被奉 白浪之百枚 表列
 御左方 時被奉 白浪之百枚 宰相家

御左方 後相領之系
 御左方 貞宗 三百枚 表列
 御左方 貞宗 五十枚 宰相家

○ 右界ノ書文
 常列館林ノ御文ノ可樂 今令少ノ松年御書
 之令少御賜也 廿日 同國水戸領左向ノ御海宮ノ
 三方 水戸侯ノ御便ノ家臣中山領御書

みちのちと山加所あり 大樹あり 今二万と云はる
と云く 越前 國湯山の城再築乃合余あり
小笠原大守 宣く 七

○ 方遜志存ノ言 箴曰 發乎口 為 讖 卜 為 咎 加乎人
為 喜 卜 為 嗔 用 乎 世 為 成 卜 為 敗 傳 乎 晝 為 賢 卜
為 愚 卜 嗚呼 其 發 也 可 不 慎 乎

言一度火く 駟も 進も 居る 予く 情を 箴之

○ 草薙神劍の由來 櫻田の由傳あり 一 年 少 如何
櫻田本記及 貞觀寛平の記 之れを 櫻田傳と云
居一 和く 室劔の記 一 卷 用 傳 あり 一 卷 是
新氏の事あり 寛永四年 丁 丑 二月 十八日 結末 阿閉梨心

危の書字せし 下の如と云く 甚々 奇怪 其
あり 但し 一 記 として 其 三 なる あり 一 次

○ 或記曰 永享七年十二月 壬午 皇 皇 御 幼 中 補 遠 轉 已
領内 秋 迄 三 山 越 於 之 君 之 將 雅 佐 列 の 林 氏 某
依 而 徳 川 殿 之 献 予 同 八 年 四 月 三 日 傳 月 殿 謹 初
依 君 之 美 方 卜 之 於 予 招 予 家 家 首 危 之 御 美 首
世 起 之 一 三 三 三 林 氏 付 病 之 墓 之 抄 也 一 是
病 之 墓 之 權 樂 之 三 三

○ 撰列 大 飯 中 世 之 石 山 之 呼 一 一 水 福 寺
乃 云 所 之 古 記 一 東 成 之 苑 生 玉 石 山 之 本 形 寺
書 之 傳 也 傳 一

銀子れー其もふりしや

○尾列市家人の始 自源致公以来其後の始を記すのこ

市凌見 平忠主計次 市傳 辻全徳理亮

市家吉

市家平人正 竹橋山次郎 甲列以来

阿部河内守 酒門孝前守 谷吉屋近藤家系 市吉中

酒門志取河内守の家代 山崎中 城若島 今略し

市城代

市来志摩 志水早世友

市合河内流

市通初相 山下大和

同心派

阿部河内 市来志平 市島若江島 市川政次

市川若島

市家

辻全徳理 市川内通 市山掃部 市通初相 市山掃部

辻全徳理 市川内通 市山掃部 市通初相 市山掃部

市川若島 市川若島 志水監物 市川内通 市川若島 市川若島

市川人

市川若島 市川内通 市川若島 市川若島

市川若島 市川内通

市川若島

市邊抄紙

山下任儀

在江之島了ら兼ス

宣發久吉史

小室永十郎

在江之島了ら兼ス

理和院藏少抄本

後醍醐天皇

所創在江之島

寛文八年八月始テ了ラ

堀内之儀

船長信房 林玄之丞

川陀文也

市邊抄紙

古庵在江之島

系用左馬

右田成於

在三人薩摩志在郷以朱初之流所并之在公指於
少年所志在公所以後三人之流之入也又三人之

所抄紙

杉井知信儀

今人係在江之島

在五人志在公以朱小室系想江之島南郊安在以後

今人志在公

繫用左馬

市邊抄紙

市邊抄紙

少室志摩

志吉卿以來初之了ら後而水大寺山形寺の
之流也人通世之人家水四年了ら又二人

少室志摩

屋係内花抄 左馬右平

以後少室志摩在江之島

所抄紙

小川之庄
安永
内庄
昌

安永
平定
内庄
昌

小川
内庄
昌

石
内庄
昌

内庄
昌

三ノ丸
内庄
昌

内庄
昌

石
内庄
昌

内庄
昌

石
内庄
昌

内庄
昌

加可
安永
中
山

安永
中
山

安永
中
山

安永
中
山

安永
中
山

安永
中
山

安永
中
山

安永
中
山

安永
中
山

安永
中
山

安永
中
山

五事寺行

界古之古史

伊升源寺

山嶽附

將軍塚

松山源寺古史

平田在子元

下傳古史 柳原古史 以後而人 之後之人 以後
市本丸圍方山 移塚 觀及古山 法法古史 移升古史
仙本古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史
大融院殿 山化界 之後止

西山丸圍方山 移塚 觀及古山 法法古史 移升古史
仙本古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史
仙本古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史
仙本古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

情記 山古史 坊古史 坊古史 坊古史 坊古史

安皮古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

本村古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

之後古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

村古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

寺古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

石堂行村 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

山古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

行古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

市古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

館古史 古史古史 古史古史 古史古史 古史古史

切支丹奉行

海保津守

寛文九年正月

三月廿七日

行初

大通奉行

河野

山崎

尾内

山崎

河野

河野

河野

河野

三人忠吉卿
以来勤

古志 弁法後の始末多し 南陽代少例而用之と云

全

奥向主

是志主編之

是志主編之

弁法 乃代在 不決 其後 皆事 寛文 七年 六月

弁法 乃代在 不決 其後 皆事 寛文 七年 六月

此後 播磨 守命 氏 依 志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之

志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之

志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之

志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之

志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之

志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之

志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之 志 主 編 之

